年間第5週・水曜日 39. 仕事の尊厳

年間第5週・水曜日

39. 仕事の尊厳

- 一神は働くことを命じられたが、それは罰ではなく祝福であり、神の創造の御業に参与させるためである。 疲れや苦労は、キリストとの共同救済者になるための助けであると考えるべき。
- 一 専門的な評判。怠惰は仕事の大 敵。
- 一 良くなされた仕事の効力

39.1 仕事に対する神の命令は祝 福

神は地球を創造し、あらゆる見事な方法で豊かにしました「神は人間を連れて来てエデンの園に置き、そこを耕させ、守らせました」 $\frac{1}{0}$ 。それは即ち、そこで働くためです。ご自分にかたどって人間を創造された $\frac{1}{0}$

神は、創造的な活動を共にしてほし いとお思いになりました。神は人間 が物の内にある宝を発見し、人間の 働きによって美を形作り、物を変え ることをお望みになりました。どち らにしても、仕事は罪によるもので はなく、生命の尊厳と創造者が課し た義務です。というのは、人間は働 くように創られたからです。仕事 は、人が創造の働きを共にする手段 です。そのために仕事が何から成り 立っていようと、人を高貴にするだ けでなく、超自然的完成と同様に、 この世における人間の完成に到達す る道具でもあります³。

仕事に対する神の命令は、人祖が罪 を犯す以前にすでに存在しました。 しかし、原罪によって仕事はつらら 骨の折れるものになりました。仕事 というものはそれ自体、人を高貴に し、素晴らしい尊厳を示すことが きます。たとえ今は苦難と苦痛、実 りのない疲労を伴っても、それは神 の創造的な力と活動に参加すること だからです。そのうえ、神の声を はっきりと認めることができない世 界であっても、世界が神の世界であ り続けるのと全く同じように、困難 な状況と条件のもとで成し遂げられ なければならない仕事であっても、 仕事は神が私たちに与えた贈物です ⁴。

仕事は祝福すべき素晴らしいもの、 人間の尊厳を保ちそれを増すもので す 5 。 教会は創世記の最初のページ に、仕事は地上に人間が存在するた めの根本的な事柄だという確信の源 を見出します 6 。

仕事には、ナザレでの隠れた生活と 3年間の公生活におけるキリストを 通して、贖いをもたらす力が与えら れました。贖い(の実現)によっ て、仕事の困難な側面は、仕事をす る人と全人類にとって、聖化を実現 するものとなりました。愛と共に捧

げられた汗と労苦は聖性の宝になり ます。神の愛のために行われた仕事 は、人間が創造のみ業だけでなく、 贖いの業に協力する手段だからで す。あらゆる什事には、私たちの罪 や他の人々の罪の償いとして神に捧 げることのできる疲労とストレスが あります。仕事がどんなに組織化さ れていても、完全に取り除くことが できない苦労を謙遜に受け入れるこ とは、知性や意志、感覚の浄化に役 立つことを意味しますっ。今日の祈 りの中で、私たちが仕事について、 会社や店で、また、家で勉強してい る時、不平を言っていないかどうか 糾明するべきです。気高い意向の成 就のために困難な仕事から生じる疲 れを捧げているかどうか、神の現存 のうちに考えてみるべきです。どの 仕事にもある、あまり注目されない 面に、私たちを浄化し、他の人々の ために捧げることのできるキリスト 教的犠牲を捧げる機会を見出してい るかどうか糾明するべきです。

39.2 専門的名声、仕事の敵である怠慢

仕事は人がそこから実りを生じさせ るために授かる才能で、すべて例外 なく人間の尊厳の証明であり、神の 創造になる世界を人間が支配してい る証拠なのです。仕事は自己の人格 を発展させる機会であり、人々と協 調するための絆となり、家族を支え る手段でもあります。さらにまた、 私たちは仕事を通して、社会の向上 と全人類の進歩に寄与することがで きるのです⁸。 キリスト者にとって 良く行われた什事は、この世のあら ゆる現実の福音化を実現する手段で あると同時に、私たちがイエス・キ リストと個人的に出会うための手段 でもあります。

人が仕事をとおしてそれを超えたものになり⁹、仕事がキリストを愛し他の人々にキリストを伝える手段と機会になるために、人間的な面で一

連の条件 - 勤勉、堅固、時間厳 守、専門的名声、有能であること -をことごとく果たすことが必要で す。一方、他人のことに関心を持た ない、能力がない、仕事を頻繁に休 む、…これらすべては、真のキリス ト教的な人生観と矛盾するもので す。怠惰な働き手や無関心な働き方 は、社会における仕事や地位が何で あろうと、まず自分の尊厳に反し、 次に不良品を受け取る人々の尊厳に 反します。その人は自ら住んでいる その社会に対して罪を犯します。な ぜなら、個人が行ったすべての悪と すべての善は人間社会に影響を与え るからです。きちんと仕上げられな かった仕事は悪い模範を与えるの で、その結果、過失や正義の徳に反 する罪であるだけでなく、愛に反す る罪にもなるのです。

仕事にとって大きな敵は怠慢です。 それは多くのところに現れます。怠 け者は何もしないで時間を浪費する だけでなく、仕事を完成させることができません。その人は仕事をその 時の気分で選び、努力せず、少しませるとその仕事を放棄するとその仕事を放棄するとその仕事を放ますが、仕事に堅固と忍耐があるとやる気をなくし、最後のたされるとやる気をなくし、最後のたことを完成することができません。

キリストに倣いたいなら、自分で選 んだ職業や仕事に相応しい訓練をす る努力をしなければなりません。そ うして、私たちは仕事をしていく 間、絶えずこの仕事をよりよく追求 し、推し進めていきます。子どもた ちの世話をするために自分を捧げる 母は、家庭をどう管理するか、自由 に使えるお金と設備をどのように上 手に管理するかを考える必要があり ます。家族全員がくつろぐことがで きるように、家庭を、贅沢にではな く趣味良く整えるよう手段を講じ て、心地良いものにしなければなり

ません。子どもたちと夫の個件を理 解し、必要であれば、個人的な振舞 いを、どのように向上させられるか 知る必要があります。しっかりして いると同時に優しく、単純である必 要があるでしょう。仕事に出かけた ら、すべきことをできるだけ効果的 に完全にやり遂げる必要がありま す。前もって予定されたスケジュー ルを守らなければなりません。長々 と続く会話で時間を無駄にしてはい けません。手当たり次第にテレビの スイッチを入れることを避けなけれ ばなりません。

学生が良いキリスト者でありたいと 思うなら、よく勉強する学生でなりません。講義に出席と出席があります。課題にきちんトトをいかなければならず、ノートのなければならず、からなければなられると整理し、時間を教わらなければなりません。建築家、秘書、経れれるとを業家と、皆それぞれ の分野で同じように有能でなければ なりません。

第二バチカン公会議は、現世的な義務と隣人に対する義務を回避するキリスト者は、神ご自身を無視し、永遠の救いを危うくすると教えています10。このような人は根本的に重要な問題についてとるべき道が間違っており、もし、変更しなければ神を見出すことができなくなるでしょう。

ヨセフの仕事場で仕事をするイエス を見てみましょう。そして、まわり にいる人々から、自分が良く働く人 と思われているかどうか糾明してみ ましょう。

39. 3 仕事をきちんと行う徳

人々が気づくかどうかはさほど気にせず、一般的には知られていない、 細かいところまでを最後までやり遂 げ、神の現存のうちに良心的に行わ れた仕事をすれば、専門職での名専門職での名専門職での事にとれます。自分強にといる事にといる事にといる。 学生にとのでないです。 神に尊ことをします。 神に尊ことをです。 はいるといるをしまない。 神になるをでいる。 神になるがられば、 できるようにするとなるにするといる。 は、 たちできるようにするといる。 は、 たちできるようにする は、 ない は、 また は、 ま

仕事上の名声と同様に、神は他の を私たちに要求しておられます。 の人たちを喜ばせる奉仕の精神、 う自身を重視しすぎない。 が単なるが単なる活動主義に陥らないまる にする落ち着きを求めておらせままる は、新りや家族のして するために仕事を止めたりしてその ばならない時、どのようにしてその 仕事から離れるか、心配を脇に置いたらよいかを知る必要があります。 妻、夫、子どもたち、両親、友人の言うことに耳を傾ける時が来たなら、仕事を言い訳にしてはなりません。

神や家族、友人に捧げる時間までも 仕事の時間にしてしまうべきではあ りません。こういうことが生じるな ら、それは、私たちが仕事をとおし て自分を聖化していない明確なしる しで、単に自己満足を求めているだ けでしょう。それは、神の賜物を台 無しにした別の姿になってしまうで しょう。多くの人がこの間違った理 中で什事をするので、このひずみ は、おそらく前にも増して私たちの 生涯にとって危険なものになってい るでしょう。世間で普通のキリスト 者である私たちは、職業が何であろ うと、日々、それを诵してキリスト を見出さなければならないことを絶 対に忘れてはいけません。

聖ヨセフに向かい、専門職をとおして実行しなければならない基本しましたを教えてくださいと願いましるという。聖ヨセフは大勢の困って全に仕事を覚し、仕事を完全に仕事を追した。村よしたもにのを見したのをして、微笑みやさらいがない優しい言葉で信仰と喜びにいる人を力づけるようではいかけている人を力づけるようでした一点。ヨセフに近づけばマリアを見出します。

¹ First Reading, Year 1, 創世記2・ 15

² 創世記1・27 参照

³ 聖ホセマリア・エスクリバー 手紙 1951年5月31日

⁴ M. Schmaus, Dogmatic Theology,

- ⁵ 聖ヨハネ・パウロ二世 回勅『働く ことについて』 1, 9 参照
- ⁶ 聖ヨハネ・パウロ二世 回勅『働く ことについて』 4 参照
- $^{^{7}}$ Cardinal Wyszynsky, Work 参照
- ⁸ 聖ホセマリア・エスクリバー 『知 識の香』 4 7
- ⁹ 聖ヨハネ・パウロ二世 回勅 『働く ことについて』 4 参照
- ¹⁰ 第二バチカン公会議 現代世界憲章 43
- $rac{1}{--}$ 聖ホセマリア・エスクリバー 『知識の香』 $5\ 1$

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-V-sui/ (2025/12/13)